

5 母子保健児童虐待予防事業

宮城県では産後うつ病や育児不安又は不適切な養育環境に係る対応困難性の高さが報告されている。

そのため、当センターでは育児不安や虐待要因の一つである産後うつ病などの精神疾患の早期発見と支援技術の向上や、児童虐待を予防するための地域支援体制の拡充を目的に、母子保健関係者研修を継続しているところである。

コロナ禍の長期化や地震等の災害発生が相次いでいる現状を踏まえ、平時からの災害時対策のあり方を学び、災害時に母子が安心して生活できるよう災害時対策の推進を図るために研修を実施した。

また、多職種連携が求められていることから、産科医療機関職員も対象に含め、日々の生活や育児に寄り添うということをそれぞれの立場で考え、地域の中で行う妊産婦のメンタルヘルス支援や連携の在り方について考え、支援技術の向上を図ることを目的として研修を実施した。

○ 保健師等母子保健関係者に対する研修

研修名	実施日・会場	内 容	対象・参加者数
母子保健 福祉研修 I	令和5年 12月8日(金) まなウェルみ やぎ	テーマ：災害時における母子支援対策に関する研修 講義 「災害時における母子支援対策について」 演習 「誰もが楽に頼れるようになるには？」 講師 神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 教授 吉田 穂波 氏	県・市町村の母子 保健・児童福祉担 当者 24人
母子保健 福祉研修 II	令和6年 2月19日(月) まなウェルみ やぎ	テーマ：周産期のメンタルヘルス支援に関する研修 講義 ①「妊産婦のメンタルヘルス支援について～ 寄り添いながら支援をつなぐ～（総論）」 ②「精神的問題を持つ妊産婦への支援の実際 について（事例編）」 講師 神戸女子大学 看護学部、 教授 玉木 敦子 氏	県・市町村の母子 保健・児童福祉担 当者・産科医療機 関職員 35人